

都構想で大阪市をつぶす市長・知事か、政策を進める市長・知事か

— 右派ポピュリズムとしての橋下政治

2015.11.14 大阪市立大学でのシンポジウム「大阪・橋下市政を検証する」
立命館大学法学部教授 村上弘

<参考文献（報告者関連分のみ）>

村上弘 A 「大阪都=大阪市廃止分割」構想の実体と論争」★ p.68～73 のコピーを配布します。

B 「維新の党」—右派ポピュリズムはリベラルを超えるか」★ p.84～89 " "

（藤井聡・村上弘・森裕之編『大都市自治を問う 大阪・橋下市政の検証』学芸出版社、2015年）

村上弘 B 2 『日本政治ガイドブック』法律文化社、2014年、7章「ポピュリズム—「考えさせない政治」のメカニズムと限界」 * 日本政治の基礎知識+改憲、民主主義などの論点分析の分かりやすい教科書

ダブル選挙は、
「都構想で大阪市をつぶす市長・知事か、府市協力で政策を進める市長・知事か」
の選択です。

★誘い合って投票率を上げることが、決定的に重要。

考えない熱烈なファンは、迷わず選挙に行きます。

★考える賢い市民の方々も、決して棄権せず、「よりましな選択肢」を選びましょう。

★マスコミは、都構想は大阪市の廃止を意味するという（橋下氏が語らない）重要事実を、引き続き市民に説明する責務があります。

■要約：

橋下氏と維新の政治

- ①小さな政府論（必要な削減を超えてデメリット）。その典型が都構想=大阪市廃止
- ②単純化、虚偽説明、非合理主義。その典型が大阪市廃止を隠したままの都構想
- ③権威主義、反対する人々には激しい攻撃

↓
それでも [それゆえに] かなりの熱心なファン

↓
批判・懐疑だけでなく、投票に行かないと、大阪を健全化できない

政治学的に分析すると、①③=右派、②③=ポピュリズム となる。（図表 1, 2）

しかし、「改革」を標榜し右派を隠して、無党派中間層から集票

→自民党の大勝に貢献 →集团的自衛権法制、2016 改憲？

A. 「大阪都=大阪市廃止分割」構想

1. 3つの名称、構想の多面性
2. 大都市制度の種類と、国際比較
郊外（広域自治体）+中心都市（市）の「二重システム」が常識
↳指定都市制度のように権限強化する国も多い。特別市は首都が中心。
3. 構想の議論と賛否
4. 政治過程 大阪市廃止の説明責任を避けたが、住民投票で否決
 - (1) 5年間の経緯
 - (2) 投票行動
 - (3) 橋下市政による一方的な説明と、対抗情報の広がり
詐欺的な投票用紙

5. 展望

都構想による大阪の「失われた4年間」
2015年秋のダブル選挙で、維新は都構想を再提案。
野党、有権者、マスコミの対応は？

B. 攻撃型ポピュリズム

1. 維新の党、橋下氏の政治とは何か

- (1) 6年間の軌跡
橋下知事 → 都構想で「地域政党」伸ばす → 2011市長も獲得 → 2012都構想根拠法 →
- (2) 党の方針（図表1）
右派 = 小さな政府 + 権威主義
- (3) 「右派ポピュリズム」という解釈
ポピュリズム（大衆扇動迎合政治）
= 構造は大衆と直結。手法は攻撃型、バラマキ型に分類
ex. 大阪都構想は、大阪市（議会、労組）を「敵」として廃絶する発想で人気。
近年の維新は、「身を切る改革（公務員・議員削減）で住民サービス改善」で人気。
↳ しかし行政活動や民主主義も切って下させる
日本では21世紀の15年間で、成功事例2（小泉首相、橋下市長）、多少成功1（河村市長）
- (4) 維新の強さの理由と限界
①変化、改革をアピール、②「身を切る改革」、③単純化、④橋下氏の弁舌と攻撃、
⑤政治的企業家（なりたい人）をリクルート、⑥マスコミの委縮と不勉強、
⑦かなりの（大阪の？）有権者の支持（図表2）
— 反知性主義・権威主義の層（大衆）+ 新自由主義のビジネスマン？

2. 政党システムへの大きな影響 — 右傾化への貢献

2012年以降を、自民党1党優位制の復活と見るか（図表3）

— ただし、得票率は3~4割止まりで、議席は6割強。むしろ民主票が激減（他党へ/棄権）

その原因（説明）

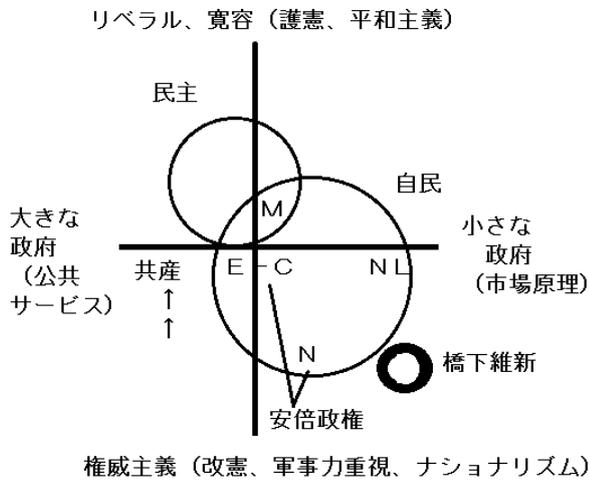
- ①自民の社会的ネットワーク（業界、後援会、地方議員）+ ナショナリズム的社会運動
- ②公明の忠実な協力 ← 小選挙区制
- ③民主党の急落
リベラルの基礎票の弱さ（労組、市民団体、地方議員）
← 日本社会・文化的特徴？
民主の失敗と努力不足？（保守系小沢派による分裂、不慣れなリーダー、脱官僚の行き過ぎ）
民主政権の成果（原発規制、自然エネルギー買取制度、公立高校無償化など）への無視
- ④（橋下系）維新は右派だが、ポピュリズム手法で「改革派」を演じる。
→ 民主の依拠してきた中間派、無党派層を吸収 ← 比例代表制、マスコミ報道「第三極」
しかし政治的立場の違いなどから、民主は維新と合併すると分裂の危険
c f. 2015年秋、橋下氏の東京系維新に対する分裂・解体作戦は、決定的な教訓

<次ページに図表があります>

■図表 1, 2

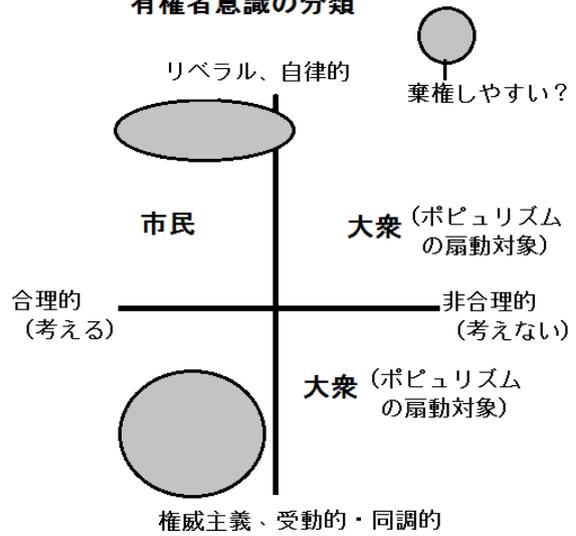
* 観察にもとづく仮説であり、調査等による実証を要する

有権者意識と政党の分類



- ★ 自民党の内部：
- M 穏健派 (リベラル)
 - E-C 経済利益とその配分
 - N ナショナリズム
 - NL 新自由主義 (小さな政府)

有権者意識の分類



■図表 3 主要政党の比例代表得票率の変遷 (%)

	Votes (%) of Parties in Proportional Representation						2014 LH seats			
	LH	UH	LH	UH	LH	UH	LH	PR	districts	
	2005年 衆院	2007年 参院	2009年 衆院	2010年 参院	2012年 衆院	2013年 参院	2014年 衆院	比例 議席	小選挙区 議席	
LDP	自民党	38.2	28.1	26.7	24.1	27.6	34.7	33.1	68	222
Komei	公明党	13.3	13.2	11.5	13.1	11.8	14.2	13.7	26	9
Democratic	民主党	31.0	39.5	42.4	31.6	16.0	13.4	18.3	35	38
Ishin	「維新」	-	-	-	-	20.4	11.9	15.7	30	11
Communist	共産党	7.3	7.5	7.0	6.1	6.1	9.7	11.4	20	1
Minnna	みんなの党	-	-	4.3	13.6	8.7	8.9	-	-	-
	未来の党	-	-	-	-	5.7	-	-	-	-
SDJ	社民党	5.5	4.5	4.3	3.8	2.4	2.4	2.5	1	1
(turn out)	(投票率%)	(68)	(59)	(69)	(58)	(59)	(52)	(53)		

出典：総務省統計局『日本統計年鑑』各年版、『新聞ダイジェスト』などから筆者が作成。

180 295

LH: Lower House= House of Representatives UH: Upper House= House of Councillors